

《forum in FORUM》

化学系研究設備有効活用ネットワーク紹介

科学分析支援センター 藤原 隆司

国立大学等の法人化以降における大学財政の状況や近年の国家財政状況が厳しくなる中、全国の大学や研究所における汎用性の高い装置の修理、更新、購入が困難な状況になっております。このような状況下では我が国の基礎科学の教育研究基盤の崩壊が危惧されています。この危機的状況における一つの対策として分子科学研究所が全国の大学における化学系付置研究所の関係者と検討し「化学系汎用機器全国・地域共同利用ネットワークの構築」という構想を取りまとめて概算要求を行いました。その結果平成19年度政府予算案において「化学系研究設備有効活用ネットワークの構築」という事業が認められました。

この化学系研究設備有効活用ネットワークは各大学(主に国立大学法人)が所有する研究設備を相互利用や共同利用の推進を行い、将来の新しい共同研究を促進するという目的の事業です。そのために各大学法人等が所有する研究設備の復活再生を行い、さらに先端的・地域特徴的な新規設備の重点的導入を図り、登録されるすべての機器については全国規模の共同利用に供することを義務づけることが本事業の大きな柱となっています。この共同研究を円滑に行うために全国を12に分割し、また全国規模のコンピュータネットワークの構築や利用料の徴収による維持費の確保(全国共同利用で分子研に設置する場合は除く)もこの事業の特徴となっております。

科学分析支援センター保有の装置も老朽化が進んでいるものが多く、ユーザーの皆様のご協力などによって性能維持につとめ、また概算要求などによる新規機種への更新、高性能化を図っているところではありますが、限界もあります。そこで本学も本ネットワークに参加し、いくつかの機種に関しては本ネットワークの復活再生希望機種にリストアップしております。

本事業の波及効果としては、主目的である研究設備の有効活用に加えて近隣大学の設備を利用することによる研究者、大学院生等の交流促進や情報交換の活性化が期待されています。また、依頼測定システムもありますので、近隣には無い設備での測定データを得ることが可能となり、研究の広がりや展開も期待できます。

利用に際してはオンラインの予約管理システムが稼働しており、オンラインでの登録設備詳細や予約状況の閲覧、予約が可能となっています。予約の流れは本センターの予約システムに非常に似ておりますので、本学の教職員、学生の皆様が利用される場合は大きな違和感なく利用できると思います。

なお、本学は北関東ブロックに所属し、当ブロックには筑波大学、茨城大学、宇都宮大学、群馬大学、埼玉大学の5大学が所属し、地域拠点機関として筑波大学が北関東ブロックの取りまとめにあたっています。ネットワークの立ち上げには当時の科学分析支援センター長の廣瀬教授には大学委員として大学内のとりまとめなどにご尽力いただきました。平成20年度からはセンター専任教員の藤原が大学委員となっております。

本ネットワークにご興味のある方は下記URLをご参照いただき、登録希望などある場合は科学分析支援センターまでお問い合わせ下さい。

URL: <http://chem-eqnet.ims.ac.jp/index.html>